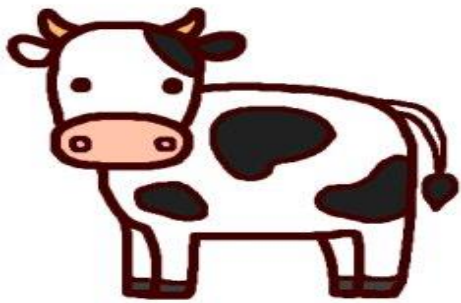


和牛の少子化どうしよう



A班：佐久間、諸伏、山田

▶ 目次

- 新聞記事
- 記事要約
- 現状分析
- 問題意識
- 政策提言
- 試算
- 参考文献

►新聞記事



2015年11月27日朝日新聞

「和牛も少子化、せり価格高騰、食卓にもじわり波及」

和牛の子牛の数が減り、せり価格が上がっている。子牛の売買頭数は3年前より1割減り、価格は7割上がった。牛を育てる農家が高齢化などで減ったからだ。牛肉の小売価格も3年間で2割ほど高くなっている。独立行政法人「農畜産業振興機構」によると、10月の和牛100グラムの小売価格（全国平均）は、サーロインが1335円、かたが754円。前年同月と比べ、ともに1割高い。輸入品も円安で同程度上がり、牛肉全体で高止まりが続く。和牛の生産は、母牛から子牛を生ませる繁殖農家と、子牛を大きくする肥育農家との分業が多い。両者が売買するせり価格は、黒毛和牛1頭が10月に前年比2割増の67万2千円。41カ月連続で前年を上回る。環太平洋経済連携協定（TPP）の大筋合意を受け、政府が「攻めの農業」として輸出を強化する和牛。ただ、足もとの産地では子牛の高値に戸惑いが広がる。肥育農家は子牛の仕入れ値が上がる割には、肉牛の販売価格に転嫁できない。牛肉の高値で消費者が離れると、繁殖農家も含めた和牛生産全体が打撃を受ける。岡山県内の全農県本部総合家畜市場での今月のせりは、平均価格が1頭約65万7千円。10月より約2万1千円高い。買いに来た肥育農家は「こんなに上がると大変不安だ。育てるコストを下げるしかない」。出した牛に70万円以上の値がついた岡山県内の繁殖農家は「普通じゃ考えられん高値」と話す。子牛不足は全国的な傾向で、近畿や九州から買いに来る農家も増えているという。今の子牛価格は3年前より7割高い水準だ。売買される数は、2012年度の約36・1万頭が14年度に33・4万頭に減った。母牛1頭が生むのは1年余りに1頭で、子牛は急に増やせない。子牛を生ませる農家の数は今年4万7千戸で、5年前より3割少ない。高齢化が進み、後継者が足りない。宮崎県で10年に発生した口蹄疫（こうていえき）で約7万頭の牛が処分されたことも、不足に拍車をかけている。子牛不足の影響は肉の流通現場にも広がっている。

▶記事要約

- ・近年、和牛の子牛の数が減少、価格が高騰している。
- ・主な原因は、農家の高齢化による後継者不足、口蹄疫による殺処分、現在の生産体制など。
- ・繁殖農家と肥育農家の分業で生産が行われている。
- ・牛肉の高値により、消費も低迷。

▶現状分析

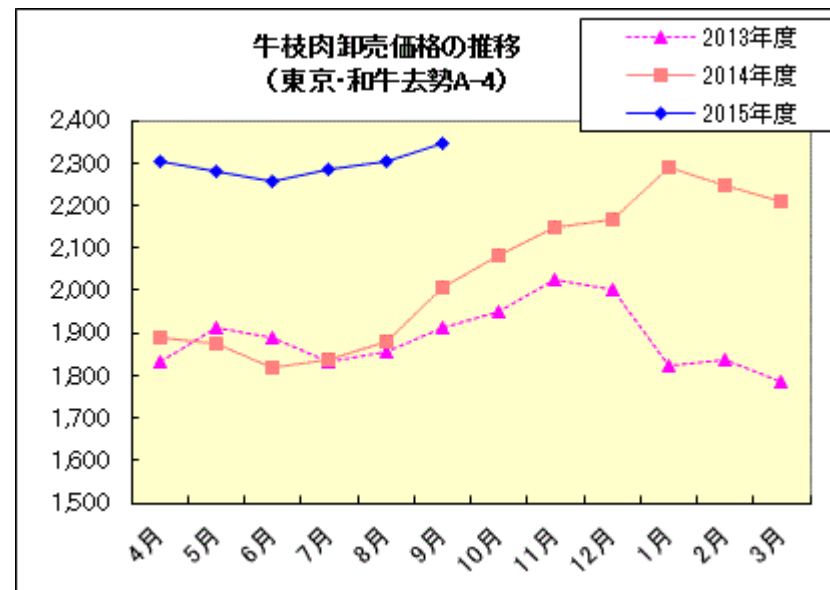
▶和牛価格の推移(13年4月～15年9月)

1kgあたりの金額。

13年の最安月に比べておよそ
3割の値上がり！



原因は？



<https://jaccnet.zisja.com/d1100000000/d1100400000/d1100401000/p0625.html?>

▶ 和牛農家の分布（データは2013年）

1 位鹿児島県（11,000軒）

2 位宮崎県（7,700軒）

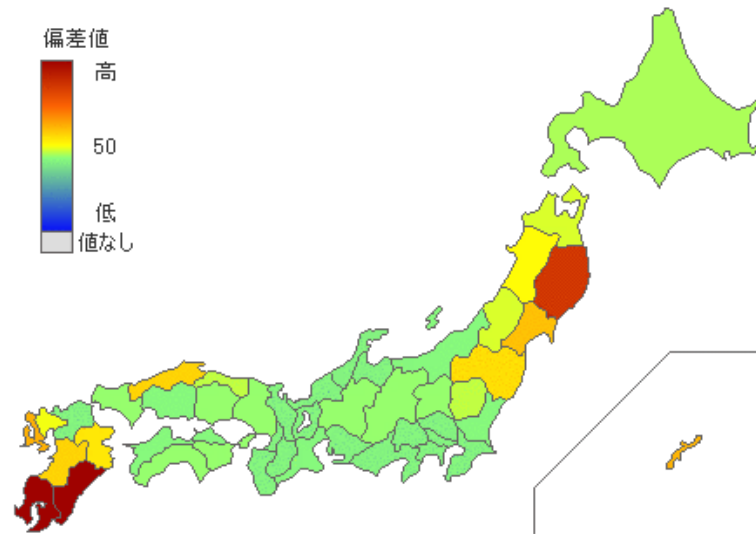
3 位岩手県（6,000軒）



少子高齢化が進む地域
が生産の中心



後継者不足

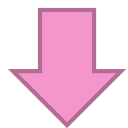


<http://todo-ran.com/t/kiji/11981>

▶ 口蹄疫

家畜がかかる伝染病の一種。

2010年に宮崎県で大流行し、約7万頭が殺処分に。



農家大打撃

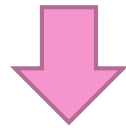


和牛減少に拍車をかける

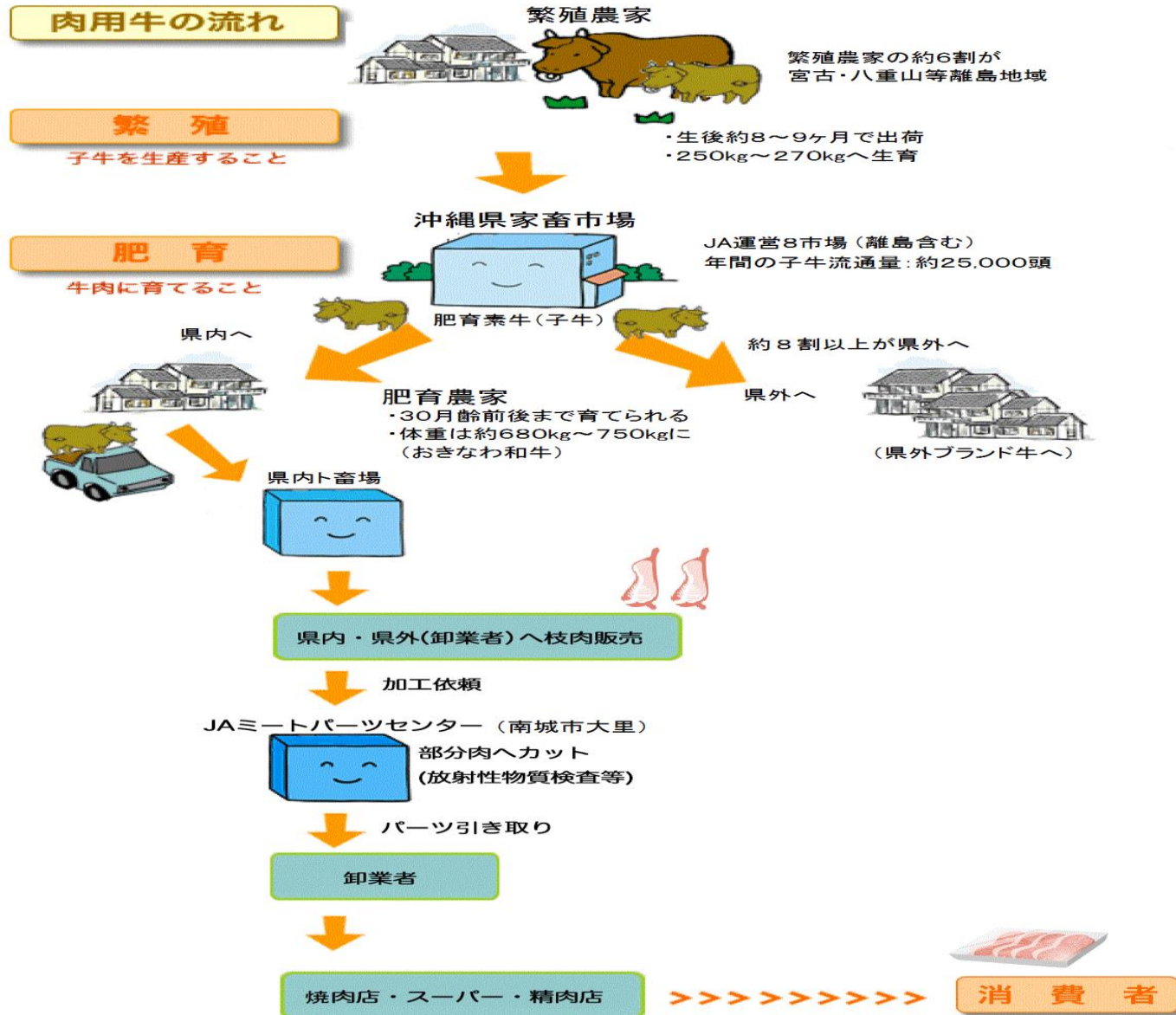


▶ 現在の和牛生産体制

繁殖農家と肥育農家による分業



繁殖農家が母牛と子牛を飼育し、数か月育てたところで子牛をセリにかけ、落札した肥育農家が市場に出荷する。



▶問題意識

子牛の減少によりセリ価格が高騰している(肥育農家の仕入れ値の高騰)



しかし、肥育農家は簡単には販売価格に転嫁できない(厳しい価格競争)

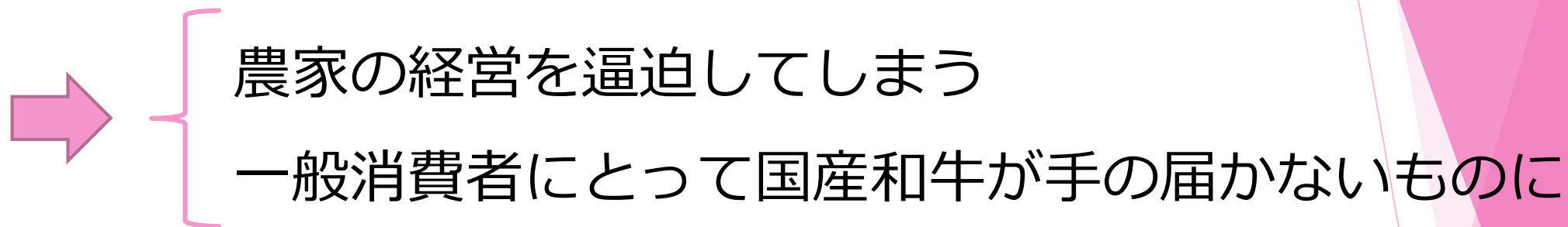


経営環境の悪化



和牛供給不足の深刻化、価格の更なる高騰

和牛の過少供給



繁殖農家を増やしたい
= 子牛の流通量を増やしたい

▶政策提言

新たに農業法人（繁殖農家） 設立

<目標>

TPPにより豪州産牛の関税が引き下げられる15年後を
一区切りに、繁殖農家を増やす

➡ 従業員を15年後に独立させる

<政策の概要>

- 自治体や農協を出資者として法人設立
- 生産設備や母牛の購入などをもって初期投資とする
- リタイア間近の人を招聘して生産技術を継承
- 15年後に従業員が独立
- 独立に際して資産を売却または譲渡
→売却収入を出資者に配分することによって清算完了

なぜ農業法人を続けずに個人単位に分割するのか

和牛の繁殖は“**あうんの呼吸**”が求められる
＝家族経営に一定の価値がある

つまり

個人繁殖農家のスタートアップを支援する

▶ 政策のメリット

1. 初期投資が回収されれば、従業員が独立するとき
格安で牛や設備を提供できること
2. 経験のある繁殖農家の技術を継承できること

▶ 政策の問題点

1. 「農業をやりたいけど始められない人がいる」
という前提に基づいた政策である
2. 独立した後の農家に関する支援は考慮していない

試算

現在の繁殖農家 1 軒あたりの和牛頭数は、30 頭である。これをどこまで大規模化すれば、15 年間で初期投資を回収することができるか考える。

仮定

毎年 1 頭の母牛から 1 頭の子牛が生まれるとする

全体の牛のうち **50%は次期繁殖用、40%は売却、10%は死亡**してしまうとする

農家には**従業員が3人、指導者が1人**いるものとする

牛 1 頭あたりの市場価格は **50万円**とする

農家の給料（年収）は 1 人 **300万円**とする

牛 1 頭を飼育するのにかかる費用は 1 年間で **20万円**とする

繁殖農家を建てるための初期設備投資は **2000万円**とする

1年目に購入する母牛頭数をXとする

初期投資

$$500000X + 20000000$$

購入費用

設備費用

毎年の費用（15年間）

$$200000X + 3000000 \times (3 + 1)$$

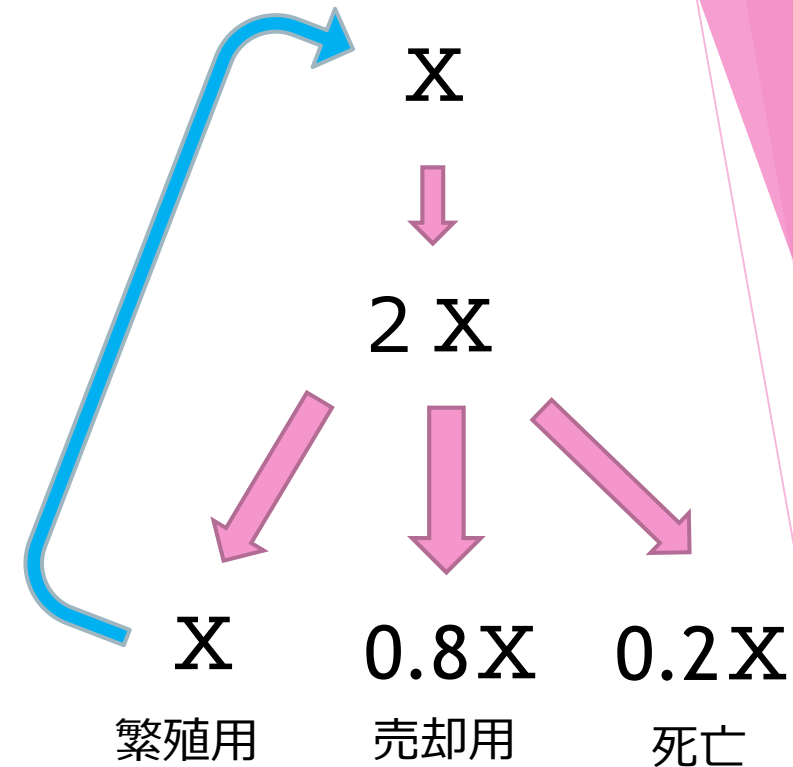
飼育費用

人件費

毎年の収入（15年間）

$$500000 \times 0.8X$$

販売収入



$$(\text{収入}) \times 15 - \{ (\text{費用}) \times 15 + (\text{初期投資}) \} \geq 0$$

今までの式を整理すると、

$$400000X \times 15 - (200000X + 12000000) \times 15 - (500000X + 20000000) \geq 0$$

毎年の収入

毎年の費用

初期投資

これを解くと、

$$6000000X - 3500000X \geq 180000000 + 20000000$$

$$2500000X \geq 200000000$$

$$X \geq 80$$

よって、初年度に **80頭以上** の母牛を購入することによる、繁殖農家の大規模化を図れば、15年間で初期投資を回収することができる！

▶参考文献

- ・「JA出資型農業法人の動向と新たな役割」 農林中金総合研究所

<https://www.nochuri.co.jp/report/pdf/n1504re2.pdf>

12月1日アクセス

- ・「農業経営の特徴」 <http://www.ks-ja.or.jp/greenet/horticulture/keiei/5.pdf> 12月1日アクセス

- ・肉用牛肥育肥育経営における法人化のメリットと課題
<http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2014/sep/spe-03.htm> 12月1日アクセス

- ▶ 「肉牛枝肉卸売価格の推移（東京市場）」

<https://jaccnet.zis-ja.com/d1100000000/d1100400000/d1100401000/p0625.html?ssl=1>（11月30日アクセス）

- ▶ 「口蹄疫の発生とその対策」農林水産省（11月30日アクセス）

- ▶ 「肉用牛畜産農家数」都道府県別統計とランキングで見る県民性<http://todo-ran.com/t/kiji/11981>（11月30日アクセス）

- ▶ 「牛肉と日本人」吉田忠著（農山漁村文化協会）